

むやみに吠えないようにしておく

普段はおとなしいペットでも、たくさんの人や動物が集まる避難所などでは慣れない環境によるストレスで鳴いたり吠えることもあるでしょう。迷惑にならないよう、日頃からむやみに吠えないようにしておくこと、また、ストレスをやわらげられるよう、犬が吠える原因を知り、対策を考えておきましょう。

●要求によるもの

日頃から、犬が吠えた時に要求をかなえたり関心を向けていると、犬は要求が通るまで吠え続けるようになります。要求吠えのときは犬に関心を示さず無視をして、静かにしていたらほめて要求をかなえましょう。食べ物や飲み物がない、散歩に行きたいなど本来満たすべき要求もありますが、避難所では吠えて迷惑になっている犬をそのままにすることはできません。体が痛い、具合が悪いなど体調不良をうたっている場合もあるので、よく観察して、犬が吠える原因と対策を考えましょう。



●恐怖や不安によるもの

社会化が不十分だと見慣れない人や物に恐怖を感じたり、常に飼い主がそばにいる生活では飼い主と離れただけで強い不安（分離不安）を感じて鳴いたり吠えたりすることがあります。適切な社会的経験（人や動物、音や物に慣らす）を積みせ、安心できる場所を作ってペットだけで過ごす時間を作ることが大切です。



体のどこでもさわられるようにしておく

どこでもさわられるようにしておくことで、災害時の健康チェックや応急処置、病院に行ったときなどにも役立ち、安心です。犬の横に座り、優しく声をかけながら、全身をさわってみましょう。足先、口元など、先端部分は敏感なので、嫌がる場合にはフードを使いながら慣らしていきましょう。犬が気持ちいいと思う場所を探してなでるのもよいでしょう。

※たたいて叱ったり、呼んで手元に来たときに叱ると、人の手を怖がるようになるので注意しましょう。

最初は首から

やさしくさわります

リラックスしてきたら耳や足など

全身をさわられるようにします



●他人の手を怖がる場合

犬好きの友人などに協力してもらい、飼い主以外の他人にさわられても大丈夫なようにしておきましょう。

1

おやつを持ち、目をあわさないように犬と横向きに座る。

2

犬が近くまで来たら、手のひらを開いて、下からおやつをあげる。

3

食べられるようになってきたら、反対側の手で、やさしく犬にさわる。

※「急に近付かない」「上から手を出さない」「大きな声を出さない」などが大切です。

※猫は動くものに強く反応します。おもちゃなどを動かして、スキンシップを図ってみましょう。

しつけの要
マテとオイデ

いろいろある犬のしつけのうち「マテ（制止）」と「オイデ（呼び戻し）」は特に重要です。社会に受け入れられやすくなるほか、交通事故や逸走防止、災害時などにも役立ちます。

